

ISSN 2434-9690

東アジア国際 言語研究

創刊号

東アジア国際言語学会
2020年1月

目次

ごあいさつ	鈴木康之 (i)
[特別寄稿]	
文の材料としての単語と連語	鈴木康之 (1)
名詞と使役動詞 (V-(サ)セル) からなる連語	早津恵美子 (5)
[対照研究]	
構造で作る派生空間詞	高橋弥守彦 (25)
日本語の「を格」、「から格」の空間名詞と自動詞との組合せに対応する台閩語の 連語との比較	施 淑恵 (36)
「ノニ」文と中国語“关联词”訳の対照研究	孫 宇雷 (51)
「習得」に関する動詞の語彙的意味の分析——日中の結果複合動詞を中心に——	蘇 丹 (61)
「のだ」文と焦点・強調的“是”字文との対照研究 — 対訳における 意味伝達と形式選択から—	曹 銀閣 (72)
「飛び+V」と“跳/飞+V”についての一考察	陳 雄洪 (82)
拡張意味単位からみた日中同形語の対照研究—「精神」を例として—	梁 鵬飛 (92)
[日本語研究]	
不可能形式による禁止表現	李 楠 (103)
コーパスに基づく類義語の意味分析の研究—「はがれる、むける」などを中心に—	李 響 (111)
日本語の存在文と所在文の置き換えに関する一考察	鄧 超群 (121)
新聞社説における譲歩表現に関する分析—その談話機能を中心に—	単 艾婷 (131)
日本語の「内の関係」連体修飾節のモダリティについての考察	張 静苑 (142)
類型論的にみる日本語の目的語名詞の定性	魯 美玲 (153)
『萬葉集』にみられるオノマトペ—AB型を中心に(その式)—	王 則堯 (164)
[中国語研究]	
中国語の仮定複文における前後節の関係標識について	新田小雨子 (174)
時量詞構文における焦点について	福本陽介 (184)
歴史的に見た離合詞—“请客”“生气”“见面”	石井宏明 (195)
小説の地の文における“SV了O”文の成立条件	白石裕一 (205)
現代中国語の数量詞について	洪 安瀾 (218)
“把”構文における可能表現についての再考	小路口ゆみ (229)
位置移動の動詞“过”のスキーマについて	蘇 秋韵 (239)
二空間の質的対立から見た“过”の通過義について—「境界プロフィール」と 「場所プロフィール」に着目して—	佐々木俊雄 (250)
清末北京語動詞の実態—張廷彦『支那語動字用法』と『動字分類大全』に基づいて—	許 辰晨 (261)
2019年月例会発表記録	(272)
編集後記	(274)
執筆者一覧	(275)
英文目録	(276)

日本語の「内の関係」連体修飾節の モダリティについての考察

A study on modality in Japanese relative clauses
Zhang Jingyuan (Shanghai International Studies University)

張 静苑
ZHANG Jingyuan

提要 有关日语的情态研究已经积累了丰硕的成果，但是从句中的情态尚没有引起足够的重视。本文基于日语记叙文法研究会的情态的分类，考察了内部关系的连体修饰节中的情态分布情况，并从类型、意义以及形式等方面与主句情态做了对比。发现内部关系的连体节中虽然可以出现多种情态，但是情态的分布远不及主句广泛，只能允许部分类型和形式出现，而且一些表现形式只能实现一部分意义，也不允许多个情态共现。

キーワード：「内の関係」連体修飾節 モダリティ

目次

1. はじめに
2. 連体節のモダリティについての先行研究
3. 研究方法
4. 内の関係の連体節におけるモダリティの分布
5. 連体節のモダリティと主節との対照研究
6. おわりに

1. はじめに

日本語のモダリティについての研究は豊かな成果を挙げている。奥田(1985a、1985b)、中右(1979)、宮崎他(2004)、寺村(1992)、益岡(1991)、仁田(1991、1999)の諸研究でモダリティの体系を記述し、モダリティの分類と形式を詳しく考察した。

モダリティの研究は、主節を中心に進んできたため、連体修飾節¹⁾のモダリティはそれほど注目を浴びていない。寺村(1992: 265)は内の関係の連体修飾節の成立の契機として、「修飾部の陳述度が一定限度内である」と述べている。連体修飾節においてはモダリティを許容しにくいとされているが、実は例(1)~(3)のように、多様なモダリティ形式が現れうる。

¹⁾ 「連体修飾節」のほかに「連体節」「名詞修飾節」の名称もあるが、以下では「連体節」と称する。

- (1) 「物の怪を退治するにあたって、用意してほしい物があるんだが」「武器ですか？」 (『夜叉姫恋変化』)
- (2) この世に存在する一切は罪だ、と思わないではいられない男がいる。
(『毎日新聞』2003)
- (3) バーナリーのことも、新しい依頼人からかかってくるはずの電話も、ほとんど
気にしなかった。
(『いつか時が汝を』)

モダリティは文を文としてならしめる要素である。主節と連体節の相違は現れうるモダリティによって示すことができる。本稿では連体節のモダリティを全面的に考察し、更に主節との対照研究を通して、連体節の特徴を明らかにする。

2. 連体節のモダリティについての先行研究

奥津(1974: 44-54)は連体修飾節に入りうる要素と入りえない要素を考察し、終助詞や助動詞のような文末詞および感動詞である文頭詞が連体修飾節には入り得ないと主張している。

仁田 (1999: 53-57)はモダリティを真性モダリティと疑似モダリティに分けている。「真性モダリティ」は典型的なモダリティで、言表事態や発話・伝達のあり方をめぐっての発話時における話し手の心的態度の言語的表現である。それ以外の心的態度の表現は「疑似モダリティ」とされる。「来るかもしれない人が来なかった」における「かもしれない」のような、連体修飾に使われたモダリティは、最初から対象外とされている。

日本語記述文法研究会²⁾ (2011:60-66) は作例を使い、連体節に現れうるモダリティを考察した。表現類型、説明、伝達のモダリティは容認しにくく、認識のモダリティには形式によっては使えると述べている。

神沢 (2012) と陳 (2018)はモダリティ要素を取る連体節をケーススタディとして分析している。前者は作例を利用し、「らしい」「しろ」「(よ) う」「ます」が連体修飾節に使用される場合、それぞれの容認度の差を検討した。後者は推量を表す助動詞「だろう」「であろう」「まい」と用言の推量形が連体節における分布および特徴を考察し、コーパスでの使用量は「であろう>だろう>用言推量形>まい」という順になっていると指摘している。

モダリティには多種多様な形式が含まれている。上述の先行研究は主に作例を利用し、連体節に用いられるモダリティ助動詞を中心に検討したが、コーパスの実例を踏まえ、連体節におけるモダリティの分布を全面的且つ詳細に分析した研究は見当たらない。また、連体節のモダリティと主節のモダリティとの比較研究も興味深い課題である。連体節には「内の関係」と「外の関係」³⁾という下位分類がある。両者は文らしさの度合いに差があるので、内包し得るモダリティの振る舞いが異なると考えられる。本稿はコーパスから収集してきた「内

²⁾ 下記の内容で「日本語記述文法研究会」に言及するとき、「記述」と略する。

³⁾ 寺村(1998)を参照されたい。

の関係」連体節の実例を対象とし、主に下記の2点を明らかにしようとする。

- (i) 連体節におけるモダリティ形式の分布
- (ii) 連体節のモダリティと主節のモダリティとの対照から見る連体節のモダリティの特徴

3. 研究方法

研究によっては、取り扱うモダリティの種類と形式が異なる。本稿はモダリティの分類と表現形式を網羅的に取り扱った記述(2014)の分類に従い、「表現類型」「評価」「認識」「説明」「伝達」を表すモダリティを考察する。それぞれのタイプのモダリティには、複数の表現形式があるが、本稿は記述(2014)の目次に出る形式を研究対象とする。現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)で各々のモダリティ形式を検索し、連体節に用いるモダリティの用例を抽出して考察する。ただし、「佐藤さんに電話した?」のように、無標で疑問や叙述などのモダリティを表す文は、議論の対象外とする。

4. 「内の関係」連体節におけるモダリティの分布

「内の関係」連体節におけるモダリティの分布は均一ではない。「表現類型」「評価」「認識」「伝達」のモダリティは現れうるが、「説明」のモダリティは出現しない。

4.1 表現類型のモダリティ

表現類型のモダリティは伝達的な機能の表しわけという文の基本的な性質を決めるもので、情報系のモダリティと行為系のモダリティに分かれている(記述、2014:15)。表現類型のモダリティの分布状況を表1にまとめている。

表1: 表現類型のモダリティの分布状況

	下位分類		形式(用例数)	
	情報系	叙述		無標形式(対象外)
疑問			のか(0) ⁴⁾	
表現類型のモダリティ	行為系	意志	しよう(0)、つもりだ(38)、気だ(0)、まい(0)	
		勧誘	しよう(0)、しようか(0)、しないか(0)	
		行為要求	命令	しろ(0)、しなさい(0)
			依頼	てくれ(0)、てください(0)、てくれないか(0)、てくれるか(0)、てもらえないか(0)、てもらえるか(0)、して(0)、てほしい(124)、てもらいたい(56)
			許可・勧め・助言	お~ください(0)、たら?(0)、といい(0)、方がいい(0)、ことだ(0)
			禁止	するな(0)
	感嘆	さ(0)、こと(0)、なんと(0)		

⁴⁾ 括弧内の数字は該当する用例の数である。

4.1.1 情報系のモダリティ

情報系のモダリティは話し手と聞き手との情報のやりとりに関わるモダリティで、叙述のモダリティと疑問のモダリティに分かれている（記述、2014：15）。

(4) 間もなく、女が、水を入れた洗面器をもって、体を拭いに来てくれるだろう。

（『砂の女』）

文は命題とモダリティからなっている。宮崎他（2004:2）は「昨日は雨が降った」のような文にある「断定」や「述べ立て」のモダリティを無標的(unmarked)なモダリティとしている。日本語の連体節では、例（4）のように、モダリティ形式を介在せずに、平叙文で叙述のモダリティを表す例が多い。北京日本語学研究センターの開発した『中日対訳コーパス』から、7つの日本語作品から内の関係の連体節を計758例収集したが、無標のモダリティ形式は最も多く、95.7%を占めている。

疑問のモダリティの典型的な表現形式として、「か」、「のか」が挙げられる。疑問のモダリティが例(5)の「内の関係」には現れないと指摘されている。コーパスから集めてきた連体節には、疑問のモダリティが観察されなかった。

(5) その映画はおもしろいか。→*おもしろいか映画（記述、2011:60）

4.1.2 行為系のモダリティ

行為系のモダリティは話し手や聞き手が実行する行為の発動に関わるモダリティである。その中に、意志のモダリティ、勧誘のモダリティ、行為要求のモダリティがある（記述、2014：16）。聞き手に対して、ある行為の実行を命じたり、頼んだりするのは言語の重要な機能の1つである。行為実行を表現するのに使いうる形式は多様である。

行為系モダリティで、働きかけ性のもっとも高いのは命令のモダリティであろう。仁田（2009:6）は命令のモダリティが、連体節の述語として出現しがたいと指摘している。大島（2010:32）は意志を表す「ウ・ヨウ・マイ」と命令・禁止が連体修飾をすることができないと指摘している。コーパスの実例調査は先行研究の主張を裏付ける。勧誘（「しよう」など）、命令（「しろ」など）や禁止（「するな」）を用いた実例は一つもない。また、感嘆を表す「さ」「こと」「なんと」も連体節に使えない。一方、例（6）と(7)のように、「つもり」が「の」を介し、主名詞を修飾する例が多く観察できる。

(6) いずれ警察にも話すことになるだろうから、矢島としては警察に話すつもりのストーリーを、前もって蔵田にも話しておく必要がある。（『三浦和義事件』）

(7) 第一は「きゅうすに入れるつもりのお茶の葉を湯呑に入れてしまう」のようなことである。（『ダーウィンの方法』）

行為要求のモダリティに、依頼を表す「てくれ」「てください」などの形式はほとんど使えないが、そのかわりに、「てほしい」、「てもらいたい」（例8、9）が使える。表1で示すよう

に、「てほしい」の使用が際立つ。

- (8) 「物の怪を退治するにあたって、用意してほしい物があるんだが」(前掲)
 (9) その場から、そのおにいさまになってもらいたい人物のところへ注進にいったが、
 …… (『トラブルさんこんにちは』)

4.2 評価のモダリティ

評価のモダリティは「ある事態に対する評価的なとらえ方を表すものである」(記述、2014: 91)。

表 2 : 評価のモダリティの分布状況

	下位分類	形式 (用例数)
評価のモダリティ	必要	といい(0)、ばいい(12)、たらしい(3)、方がいい(16)、べきだ ⁵⁾ (10604)、なくてはいけない(20)、ものだ(0)、ことだ(0)、ざるを得ない(65)、ないわけにはいかない(1)、しかない(18)
	許可・許容	てもいい(94)
	不必要	なくてもいい(26)、ことはない(0)
	不許可・非許容	てはいけない(115)

記述 (2011: 61) は評価のモダリティは、形式によって、連体節に現れうるものもあれば、現れないものもあると指摘している。例えば、「ことだ」は連体節には現れない。「ものだ」「ことだ」が「内の関係」で用いる用例は1例もないが、例 (10) ~例 (13) で示すように、同じように必要を表す「方がいい」「ばいい」「なくてはいけない」など、必要を表す諸形式が「内の関係」での使用が許容される。

- (10) 玄関に置いておくほうがいいものはたくさんあります。(『部屋と押入れの整理術』)
 (11) 一奈はもう、私に甘えていればいい子供ではない。(『殺意のアバランシュ』)
 (12) 天才は解決しなくてはいけない問題に直面しているのであり、…(『ビートルズ』)
 (13) 理論的水準においてはその低さを自認せざるを得ないわれわれは、参加を見送らざるをえなかった。(『戦後日本共産党私記』)

また、許可・許容を表す「てもいい」や不必要を表す「なくてもいい」も連体節において用いられる(例 14、15)。

- (14) 一身上の事情が本科を修めてもいい人なら皆本科にお変りなさいと云ふことをお云ひになりました。(『私の生ひ立ち』)
 (15) ……年金そのものがパンクをすれば、年金に頼らなくてもいい金持ちはいいです

⁵⁾ 「べきだ」は内の関係の連体節で、主に「べき+N」の形で現れるが、「べき+の+N」の例もある。

よ、けれども……

(『国会会議録』第102回国会)

4.3 認識のモダリティ

認識のモダリティは「情報伝達文の構成にあたって、その文によって示される事柄や情報に対する話し手のさまざまな認識態度を表し分けるものである」(記述、2014:134)。

表3: 認識のモダリティの分布状況

認識のモダリティ	下位分類	形式 (用例数)
	断定と推量	だろう(90)
	蓋然性	かもしれない(279)、にちがいない(47)、はずだ ⁶⁾ (2069)
	証拠性	ようだ(0)、らしい(172)、(し) そうだ ⁷⁾ (2513)、(する) そうだ(0)
	そのほかの認識のモダリティ	のではないか(0)、ではないか(0)、か(0)

記述(2014)は認識モダリティの形式には、蓋然性を表す「かもしれない」「にちがいない」「はずだ」と証拠性を表す「そうだ」⁸⁾を除いて、一般に名詞修飾節では用いにくいと指摘している。だが、コーパスで例(16)~(19)のように、上記の形式を用いる例が多く観察された。特に「はずだ」と「(し) そうだ」の使用が際立ち、どちらも2000例以上を超えている。

- (16) 家に乗っ取られてしまうかもしれない相手を、玄関のドアを開けて迎え入れてやるのは…… (『山田太郎十番勝負』)
- (17) 近藤がいるにちがいない八階のあたりを見ていた。(『月曜日のカーネーション』)
- (18) 布団の中で温まっているはずの肌が、びっくりするほど冷たかった。(『本の旅人』)
- (19) 彼は非難がでるたびにスタジオに集められた程度の低そうなガキどもから吊し上げを食った。(『小説伝・純愛伝』)

一方、推量を表す「だろう」は「内の関係」に現れにくく、そして「だろう」のかわりに「であろう」が現れやすいと記述(2011:62)が指摘しているが、陳(2018)と本稿がコーパスから集めてきた実例では、例(20)、(21)のように、断定と推量を表す「だろう」が連体節に用いられることが多い。

- (20) ひとえに、残り少ないだろう貴重な時間はすべてオリジナルな思想を發することと捧げられるべきであると考えたから…… (『エンゲルス論』)
- (21) 胡四王山からかつて宮澤賢治が眺めただろう風景を、見るために… (『萬鐵五郎を辿って』)

記述(2011:62)は観察や推定を表す形式として、「らしい」は現れやすいが、「ようだ」

⁶⁾ 「はずだ」は内の関係の連体節で、「はずの+N」の形で現れる。

⁷⁾ 「そうだ」は内の関係の連体節で、「そうな+N」の形で現れる。

⁸⁾ 表3における「(し) そうだ」を指す。

は現れにくいと指摘している。今回の調査でも例(22)のように、推定を表現する「らしい」は連体節に多く観察できるが、推定を表す「ようだ」が内の関係の連体節に用いられる用例は観察できなかった。

(22) また土、日曜日は、京都方面に遊びに行くらしい若者たちが、乗ってくる。

(『大垣行 345M 列車の殺意』)

4.4 説明のモダリティ

記述 (2014 : 189) は説明のモダリティを文と先行文脈との関係づけを表すものであると指摘している。主な形式として「のだ」と「わけだ」が挙げられるが、いずれも、先行文脈で示された内容の背後の事情や論理的帰結などを表す。

「のだ」を例としてみよう。「のだ」には事情の提示、把握などの複数の用法がある。例 (23) における「のだ」は「花子が泣いている」という事情を提示し、先行文脈と関係することを提示する。「のだ」は文末に使えるが、連体修飾節の中には現れない (記述 2011 : 63)。例(24)からわかるように、連体節には「のだ」の使用が許容できない。

(23) 花子が泣いている。大事にしていたカードがなくなったのだ。(益岡 1991 : 139)

(24) 金が不足していたのだ。→*不足していたのである金 (記述、2011 : 63)

表 4 : 説明のモダリティの分布状況

説明のモダリティ	形式 (用例数)
	のだ (0)、わけだ(0)、ものだ (0)、ことだ (0)

説明のモダリティの諸形式が「内の関係」連体節における振る舞いを調査した結果を表 4 にまとめている。本稿で考察する「のだ」「わけだ」「ものだ」「ことだ」が「内の関係」に用いられる事例は一例も観察されなかった。

説明のモダリティが「内の関係」連体節に入れない理由は連体節の性質によるものであると思われる。「内の関係」連体節はそれによって修飾される主名詞に対して、意味的に何らかの格にたっている。つまり連体節と主名詞が一つの文を構成するような関係にある (寺村 1998:155)。説明のモダリティは 2 つの事情の論理的関係を表すので、「内の関係」に入りにくいわけである。

4.5 伝達のモダリティ

伝達のモダリティは「文が伝達的な存在であることを反映し、話し手がその文の聞き手にどのように伝えようとするかを表すモダリティである」(記述、2014 : 229)。

伝達のモダリティには、丁寧さのモダリティと伝達のモダリティは 2 種類がある。

表5：伝達のモダリティの分布状況

	下位分類		形式 (用例数)
	丁寧さ		丁寧形 ⁹⁾ (1251)
伝達の モダリ ティ	伝達態度	伝達	よ (0)、ぞ (0)、ぜ (0)、さ (0)、わ (0)
		確認・詠嘆	ね・ねえ (0)、な (0)、なあ (0)、よね・よねえ (0)
		終助詞相当の形式	とも (0)、もの・もん (0)、の (0)、つけ (0)、 つてば (0)

丁寧なモダリティは、記述 (2011) の指摘したように、連体節に出現しうる。コーパスで例(25)のように、丁寧形のモダリティが「内の関係」連体修飾節に用いられる用例がかなり観察された。

(25) 同封させていただきます委任状のご提出をいただき、債権者集会における多数の同意を得ることが不可欠でございます。 (『裁かれる「バブル経営」』)

終助詞は主節で積極的に伝達のモダリティを表すが、「内の関係」の連体節に現れない。例(26)と(27)は非文である。コーパスの実例でも終助詞が現れる「内の関係」連体節が見当たらなかった。

(26) *おもしろいね映画 (記述、2011：63)

(27) *すごくおいしいよ料理 (記述、2011：63)

5. 「内の関係」連体節のモダリティと主節との対照研究

奥津 (1974:71-75) は連体修飾節が詞・辞弁別の基準であると主張している。主節とは性質の異なる連体節であるので、その中に出現するモダリティは文末と相違が出ると考えられる。阪田雪子(1989:145)は連体節が主名詞に限定を加えるものであるから、そこにモダリティを表す助動詞が含まれても、それを概念化して、そのような性質・状態・条件を備えたものとしてとらえていると指摘している。本章はモダリティの種類、意味、形式などの面から、主節との対照研究を試みる。

5.1 モダリティの種類

主節ではモダリティの種類や形式を問わずに許容されるが、連体節に入りうるモダリティはそれほど自由ではない。本稿の考察は、4.3 で示したように、五つのモダリティ類型で、用例数が最も多い認識のモダリティが内の関係に最も入りにくいということを示唆する。連体節のモダリティに関する先行研究でも、認識のモダリティを中心として行われてきた (神澤 2012、陳 2018)。

モダリティは多様な分類法があるが、大きく分類すると二種類に分けられる。それが寺村

⁹⁾ 丁寧形には品詞や肯定、否定によって、複数の形があるが、本稿は「ます」のみを考察した。

(1992)モダリティを「対事的」と「対人的」¹⁰⁾に分けている。認識のモダリティは「対事的」に属する。大島 (2010:42)は日本語の連体節の基本的な機能を「事物のもつさまざまな属性の中からあるものを取り上げる」属性限定と捉えている。「内の関係」連体節は属性、性質を表すので、伝達や行為要求などの「対人的」なモダリティが許容されにくいのである。

5.2 モダリティの意味

仁田 (2009:6) はモダリティがタイプの異なる節で違った意味を実現すると述べている。一つのモダリティ形式で複数のモダリティ意味を表せるが、「内の関係」連体節では、一部のモダリティ意味しか表せない。それに、主観的な意味より、客観的な意味のほうが実現されやすいという傾向がある。

「てはいけない」は基本的に事態の実現が許容できないという意味を表す。多くの場合制御可能な事態に用いられ、その事態が聞き手の行為であると、禁止の意味になる。また、規範上許容されない、あるいは不可能であるという客観的非許容を表すこともある(記述、2014:128-129)。連体節に現れると、例(28)のように、客観的非許容の意味に偏り、聞き手に働きかけるという意味合いを含まない。

- (28) いつでも兄や姉として年少者の面倒を見なくてはいけない施設という大家族では、孤独に浸る時間はない。 (『最相葉月のさいとび』)

5.3 モダリティの形式

仁田 (2009:7)はモダリティが形態的カテゴリとして拡散的で、複数の表示形式があり、それらがよく似たモダリティの意味を表すと指摘している。工藤 (2005) はモダリティの形式として、語尾変化(屈折)、助動詞の膠着による述語の合成体、「派生」「複合」の語形成手順による文法的派生体、形式的な独立性を保持する「補助動詞」「形式語」などの組み合わせによる「分析的な形式」を挙げている。諸形式で、前のものほど文法化・形態化されており、後のものほど語彙性が高く、文法性が低い。

日本語では表現類型、評価のモダリティに特に「分析的形式」が多い¹¹⁾。4.2で示すように、評価のモダリティ形式には、「ものだ」「ことだ」のような助動詞の使用はかなり制限されているが、「といい」「方がいい」「ざるを得ない」などの分析的形式は使いやすい。つまり、典型的なモダリティ形式である助動詞は、「内の関係」連体節に用いにくいことがある。それに対して、分析的形式であるモダリティは文法化の度合いが低く、語彙的特徴が残っているもので、連体節に入りやすい。

5.4 多重モダリティ

¹⁰⁾ 同じくモダリティを二分類したのは、仁田(1991)の「言表事態めあてのモダリティ」と「発話・伝達のモダリティ」、益岡(1991)の「対命題態度のモダリティ」と「表現・伝達態度のモダリティ」がある。

¹¹⁾ 表1と表2を参照されたい。

主節末において多重のモダリティ形式の使用をよく見かける。王(2014:204-206)コーパスの実例分析を通して、日本語の複数のモダリティが共起する現象を分析した。二重、三重、四重のモダリティ形式の連続が普通で、多重連続の場合、「動的>義務>認識>説明」か「動動的>義務>説明>認識」の順に配置すると指摘している。例(29)では「動動的」と「認識」のモダリティ形式が共起している。

(29) お前だって、甲子園へ行き たい だろう。

動動的 認識

(王、2014:207)

文に近い性格を持つ「外の関係」にも例(30)のように、二重モダリティの連続が可能であるが、本稿で考察した「内の関係」連体節には、多重モダリティが現れなかった。これは「内の関係」連体節に複雑なモダリティ構造が内包されにくいということを示唆する。

(30) こうすれば恐らく黒字も拡大しないだろうねという絵があそこで描かれている。

(『国会会議録』第140回国会1997)

6. おわりに

モダリティを表す言語形式が助動詞、副詞、終助詞や複合形式など多岐にわたっているの、全面的に考察しにくい。本稿は主要なモダリティの類型と形式だけを対象に、「内の関係」連体節におけるモダリティの分布とその傾向を考察した。

主節ほど自由ではないが、実例調査を通して、連体節でも多様なモダリティ形式が現れることが明らかになった。「内の関係」連体節におけるモダリティの分布は均一的ではない。表現類型、評価と認識のモダリティは一部の形式は許容しやすいが、モダリティの種類や形式によっては、厳しい制限を受ける。説明のモダリティは許容されない。また、伝達のモダリティは丁寧形しか出現できない。全体からみれば、「対事的」モダリティは内の関係の連体節に入りやすく、「対人的」モダリティは入りにくい。

モダリティ形式に複数の意味用法を有することが多い。主観的な意味より、客観的な意味のほうが「内の関係」連体節に現れやすいという傾向がある。

助動詞などの形式は使えないことがある。そのかわりに、分析的形式が積極的にモダリティを表す役割を果たす。

なお、複数のモダリティの形式の連続も観察できなかった。

モダリティを内包できるかどうかを決める要因や、通言語的に見る日本語の連体節のモダリティの特徴を今後の研究課題とする。

参考文献

大島資生(2010)『日本語連体修飾節構造の研究』ひつじ書房

神澤克徳(2012)「モダリティ要素を含む連体修飾節の分析：認知文法におけるグラウンドの観点

- から」『言語科学論集』18、京都大学学術情報リポジトリ:47-66
- 工藤浩(2005)「文の機能と叙法性」『国語と国文学』第82巻8号、至文堂:1-15
- 奥田靖雄(1985a)「文のこと・文のさまざま(1)」『教育国語』80、むぎ書房:41-49
- _____(1985b)『ことばの研究・序説』むぎ書房
- 奥津敬一郎(1974)『生成日本文法論』大修館書店
- 阪田雪子(1989)「助動詞」日本語教育学会(編集)『日本語教育事典』大修館書店:145
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- _____(1992)『寺村秀夫論文集Ⅰ—日本語文法編—』くろしお出版
- _____(1998)『寺村秀夫論文集Ⅱ—言語学・日本語教育編—』くろしお出版
- 中右実(1979)『モダリティと命題』くろしお出版
- 仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- _____(2009)『日本語のモダリティとその周辺』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会(2011)『現代日本語文法6 第11部 複文』くろしお出版
- _____(2014)『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』くろしお出版
- 益岡隆志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- 宮崎和人他(2004)『新日本語文法選書4 モダリティ』くろしお出版
- 陈燕青(2018)〈日语定语从句中的情态成分考察—以表推测的情态成分为对象〉《高等日语教育》
第1辑:96-108
- 王晓华(2014)〈汉日情态共现的差异与共性〉,《外语教学与研究》第2期(总第46期):202-213

[本研究は「上海外国语大学第三届导师学术引领计划项目-“关于汉日语主要语法特征异同的语言类型学考察”(2019年度、研究代表者:盛文忠)、「国家社科基金项目-“类型学视野下的汉日语语法特征对比研究”(研究代表者:盛文忠、課題番号16BYY183)プロジェクトの助成を受けて行われたものである。